

一 町へ

(一)

「まあ、たいへんな水だわ。」みつこさんが、大きな声でさけびました。

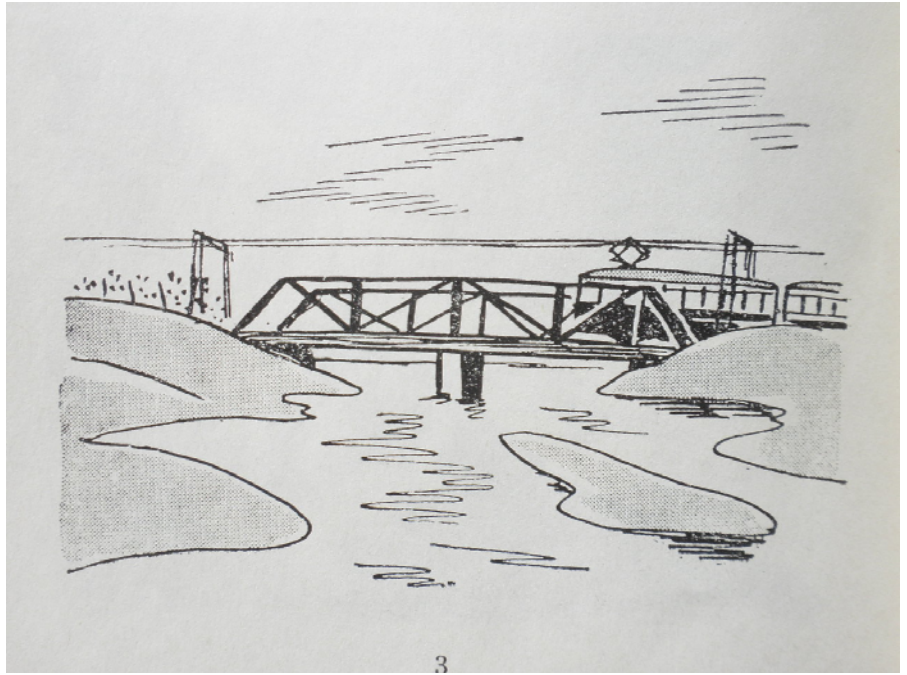
「やあ、すごいいきおいでながれていくよ。」

よこから、としおくんものぞきこんで、いいました。

長いてつきょうです。たろうくんたちの乗っている電車は、ちょうど、川のま上を走っていました。そくりよくをゆるめて、ゆっくりわたっていきます。川は、にごった水がゴーゴーと音をたてて、いまにもていぼうからあふれそうです。

乗っていたひとたちも、まどから水のいきおいをながめて、こうずいのおそろしいことを話しあっています。

たいふうのために、川かみで大雨があったので、こんなに水がふえたのでしょう。



「としちゃんのうちのほうは、だいじょうぶだったの。」たろうくんが、としおくんにききました。

「うん、大雨のやんだばんがあぶなかった。村の人がそうので、どてを高くしたよ。おとうさんもいさんも、とうとう朝まで帰らなかった

し、ねえさんたちもねないで、おにぎりのたきだしをするし＝＝＝」

「きみもみにいったの。」「あぶないからいけないって。でも、うちのまえからみていたら、どての上が、たき火でまっかだった。はんしょうが、ジャンジャンなったよ。」

「まあ、こわいわねえ。」

もう町が近いらしく、まどからは、たてこんだ家々のやねがみえはじめました。

きゅうに、ゴーツと音がして、しばらくくらくくなりました。としおくんが、くびをちぢめています。

(二)

たろうくんは、きょう、いなかからでてきたいとこのとしおくんと、町へ本を買いに行くのです。大きな本屋のあるところは、町のまんなかなので、きんじょに住んでいる、お友だちのみつこさんのにいさんに、つれていっていただくことになりました。みつこさんもぜひいきたいといって、ついてきたのです。

たろうくんの家は、こうがいにあります。近くの駅から、電車で原町というところまでいき、そこで市内電車にのりかえるのがいちばんべんりです。

やがて電車は、四人を乗せて、原町の駅につきました。

原町の駅は、じめんからはなれて、たいそう高いところにありました。それは、町のなかでは、人通りや車のゆききがはげしいので、こうかせんといって、電車が高いところを走っていたからです。

長いかいだんをくだって、やっと改札口へでました。市電の乗り場へいこうとすると、あたまの上を、かみなりのような音をさせて、電車が通りすぎました。

「ずいぶん高いところを走っているんだなあ。くずれておちはしないかしら。」「どだいがしっかりしているから、だいじょうぶだよ。」「まるで、てっきょうの下にでもいるようだねえ。」「としおくんは、地下鉄に乗ったことがありますか。」

いままで、にこにこしながら、二人の話をきいていたに

いさんが、としおくんにたずねました。

「いいえ、まだありません。乗ってみたいなあ。」

「じゃあ、帰りには地下鉄に乗ろう。」

四人は、少し高くなっている、ほそ長い安全ちたいの上で、ならんで市電をまちました。よくはれた秋のごごです。ひこごうきが一だいい、きらきらとんでいます。

ちょうど、

大きなほりわりにかけたはしの上だったので、小さな船が、水の上をゆっくりこいでいくのもみえました。船は、材木をつんでいます。そのすぐあとから、ポンポンと音をたてながら、じょうき船がおいかけていきます。

「どうですか。地下鉄は、この川の下を通っているんですよ。」にいさんが、としおくんにおしえています。

「びっくりしたわ。お船まであったのね。いったい、乗り物は、いくつかさなって通っているのでしょうか。」みつこさんは、めをくりくりさせて、ほっぺたをおさえました。

あかるい日の光にてらされて、なみきのいちょうの葉が、うつくしくかがやいています。



このほりわりは、あまりふかくないので、その下を地下鉄道が通っています。じめんの下をうまく使うと、べんりなうえに安全でもあります。そのため、近ごろでは、あさい川ばかりでなく、海のそこをほりぬいてトンネルをつくり、汽車や電車を走らせることもおこなわれています。